

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 31 号:2014 年 4 月－6 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 投資政策

閣僚会議は 2014 年第 1 四半期の国の発展実績をまとめた。公式データによると、ウズベキスタンの 1～3 月期の GDP は 7.5%成長した。工業製品の生産高は 8.9%、農産物は 6.2%、サービスは 11.8%の伸びを示した。国家予算の執行結果は GDP 比 0.2%の財政黒字だった。貿易高は 8.0%伸び、内訳は輸出が 8.4%、輸入が 7.5%であった。

IMF はウズベキスタンの 2014 年度の GDP 成長予測を、2013 年 10 月に発表した 6.5%から 7%に引き上げた。IMF は、2015 年のウズベキスタンの GDP 成長率は減速して 6.5%になると評価している。IMF はまた、ウズベキスタンの 2014～2015 年のインフレ水準の予測を 11%に引き上げた。これまでは 2014 年のインフレ率は 10.4%という予想だった。2014 年度の経常収支は、2013 年度の GDP 比 1.7%に対して 2.2%とされている。2015 年度は 1.9%という予想である。ウズベキスタン政府は、2014 年度の GDP の伸びを 2013 年度の 8%に対して 8.1%と予測している。

### 投資政策

ウズベキスタン政府がウズベキスタン復興開発基金の規模の拡大を決定したことが 5 月に発表された。今後数年間で復興開発基金の資産は現在の 150 億ドルから 250 億ドルに増える。現在同基金は、自己の資金を用いて、総額 290 億ドルを超える 86 件の大規模投資プロジェクトの共同融資に参加している。

また政府は、プロジェクトの試算総額 500 億ドルとなる 2015～2020 年の新産業発展計画を 2014 年末までに採択することを発表した。現在、経済省と貿易投資商業省は、分野別経済団体、国営大企業、地方自治体、外国パートナーの参加を得てこの計画を策定中である。同計画の主な目的は、構造改革の促進、特に GDP に占める工業の割合を 2013 年度の 24.2%から 35%に増大させることである。

### エネルギー・セクター

国営株式会社ウズベクエネルギーは、2014～15 年度の発電分野の発展計画を発表した。それによると、40 以上のプロジェクトに合計 80 億ドルを投資する計画である。大部分

の資金は、コンバインドサイクル設備をベースにした最新の電気および熱エネルギー生産技術の導入、燃料エネルギー収支における固形燃料および水力発電資源の割合の増大、相互接続送電線および制御変電所の建設に当てられる。2014 年度は、総額 63 億 3,000 万ドルを超える 28 件のプロジェクトを実施する計画である。過去 2 年間にウズベクエネルギーは総額 11 億ドルを超える 30 件のプロジェクトを完了した。

ウズベキスタンのエネルギー収支の多様化が続いている。公開型株式会社ウズベクウーゴリは、中国の China Coal Technology & Engineering Group (CCTEG) とスルハンダリヤ州の石炭採掘システムの近代化に関する契約を締結した。CCTEG は年間採掘能力 45 万 t ずつの機械化された設備 2 基をターンキー方式で納入する。このプロジェクトは、石炭輸送システムの近代化も見込んでいる。1 基目の設備の稼働開始は 2015 年、2 基目は 2016 年である。設備の納入は今年の第 3 四半期にも始まる可能性がある。総額 1 億 130 万ドルのプロジェクトの資金調達は、中国輸出入銀行の融資 8,950 万ドルとウズベク側の自己資金 1,180 万ドルによって行われる。

国営株式会社ウズベクエネルギーは、ドイツの GEO-NET Umweltconsulting GmbH との間で、2014～2015 年にウズベキスタンの 6 地域の風力発電の可能性調査に関する契約を結ぶ意向である。この調査は、2014 年の夏に開始され 2015 年の中頃まで続けられる。GEO-NET の調査結果にもとづいて、ウズベキスタンに風力発電パークを建設するプロジェクトのフィジビリティスタディの準備を開始する計画である。

ウズベキスタンのエネルギー・セクターにおける中国の参入が拡大している。例えば、CNPC はナマンガン州のミングブラク石油鉱床の試験採掘の開始を計画している。2014 年末には鉱床の整備が始まり、採掘は 2015 年上半期に開始される。ミングブラク鉱床は 1992 年に発見されたもので、可採埋蔵量は約 200 万 t である。

5 月には、ウズベキスタンから中国への天然ガス供給を拡大する計画が発表された。2015 年には 2013 年の実績 60 億 m<sup>3</sup> の 1.66 倍に当たる 100 億 m<sup>3</sup> まで供給を増やす計画である。2014 年末に中央アジアと中国を結ぶガスパイプラインのウズベキスタン部分の C 線の建設が終了することによりこの供給増大が可能になる。現在のところ、C 線を使った天然ガスの年間供給量は 70 億 m<sup>3</sup> に達している。2015 年末までにその量は 250 億 m<sup>3</sup> に達し、中央アジア・中国ガスパイプラインの総輸送能力は年間 550 億 m<sup>3</sup> まで拡大すると見込まれている。

また、中国は今後もウズベキスタンからウランを輸入し続ける意向であることがわかった。中国の CGNPC と国営企業ノヴォイスキー採鉱精錬コンビナートの間の合意により、2021 年までの期間に総額 8 億ドル分が供給される。物理的な量については公表されていない。中国中央税関の発表によると、ウズベキスタンは対中国ウラン輸出国の中でカザフスタンに次いで二位になり、2013 年のウズベキスタンから中国へのウラン輸出は 2012 年比 1.9 倍の 1663 t に達した。

## 輸送セクター

ウズベキスタンは、国内の交通網の強化および国際輸送回廊の発展に関する政策を積極的に実施している。例えば、カムチク峠（標高 1,200 m 以上）を通る鉄道建設プロジェクトの総額および資金源が合意された。建設期間は 5 年、プロジェクトの総額は約 17 億 7,000 万ドルである。そのうち 2 億 7,900 万ドルはウズベキスタン復興開発基金が出資する。残りは国営鉄道株式会社ウズベキスタン・テミル・ヨラリ（ウズベク鉄道）の自己資金である。また、中国の China Railway Tunnel Group Co., Ltd. のプロジェクトの枠内で、19 km の鉄道トンネルが建設される。中国輸出入銀行はこの建設に 3 億 5,000 万ドルを 20 年の期間で融資する（5 年間は優遇期間で年利 2.25%）。

4 月末に国営鉄道株式会社ウズベキスタン・テミル・ヨラリ（ウズベク鉄道）のラマトフ会長を団長とするウズベク代表団がイランを訪問したことを指摘したい。双方は両国間のトランジットの拡大および鉄道輸送の発展について話し合った。イランのマスコミ報道によると、二国間協力の他に、ウズベキスタン-トルクメニスタン-イラン-オマーンを結ぶ国際輸送・トランジット回廊の創設に関する 4 カ国協定の実現も議題に上がった。

今後数ヶ月の間にウズベキスタンの企業はバルト海の港リエパヤ（ラトビア）に輸送・ロジスティックセンターを開設し、それを使って北欧および西欧諸国の消費者に新鮮な野菜や果物を直接供給することを計画している。今年の 4 月、リガに Uzbekistan Trading House が開設された。ここに我が国で生産される軽工業および食品産業の製品、新鮮な野菜や果物が供給される。

## 電機工業分野

電気技術分野は、4～5 月の政府決定から判断して、経済の構造改革戦略の中の戦略的優先分野の一つになっている。例えば、4 月にカリモフ大統領はウズエルテフサノアト協会を株式会社に改変することを承認した。国が 50% + 1 株の割合を保つ新会社は、国内市場および輸出向けの新製品の生産拡大を目的として生産およびマーケティング活動の調整に着手する。ウズエルテフサノアトは、統一技術政策の実施、製品、部品および材料の国産化のさらなる発展に責任を負う。また新会社は、ウズベキスタン国内での高度な家電製品の製造実施に協力する用意のある戦略的外資を誘致することを目的として、この分野での投資政策の実施を任された。

現在のところ電気技術分野でのウズベキスタンの最重要パートナーは中国企業である。これらの企業は開けつつある投資の機会を最大限有利に活用するだろう。例えば、2016～2017 年にタシケントに中国企業（ミデヤおよびチャングホング）との合弁で家電製品の大規模な保守サービスセンター（年間 50 万台）、家電製品の常設展示場、家電

製品の製造・マーケティングセンターを設ける計画が発表された。ミデヤ社と共同で年間 30 万台の生産能力を持つ冷蔵庫工場を、チャングホング社と共同で年間 50 万台を製造するテレビ工場を建てる計画である。

4 月に政府は 2018 年までに ZTE（中国）と Artel（ウズベキスタン）による携帯電話の生産を 3.9 倍に増やす計画を発表した。2014 年は 40 万台、2015 年は 55 万台、2016 年は 70 万台、2017 年は 85 万台、2018 年は 100 万台を生産する計画である。

ジザク産業特区において中国企業 CETC Internation Co., Ltd と共同で無停電電源装置を年間 5 万台生産することが計画されている。ウズベキスタン政府は投資プロジェクトにおいて国産化と輸出増大を常に優先しているので、今後 3～5 年の間に輸出志向の電気技術クラスターが形成されることが期待される。

## **機械工業**

5 月にカリモフ大統領は農業機械工業の持株会社ウズアグロプロムマシホールディングの設立を承認した。この決定は、近年困難な状況にあるウズベキスタンの多くの機械メーカーの復活と発展を目指すものである。それと平行して政府は 2014～2016 年に農業機械の保守サービスシステムのさらなる機能改善のための計画を策定するよう指示した。

今後数年の間に新会社が生産設備の近代化のために外資の誘致だけでなく国内銀行による融資において政府の支援を受けることが期待される。政府は、農場および伝統的個人農を対象とするリース方式を使った国内市場での国産農業機械に対する需要刺激を積極的に促進していく。

中国企業はこの分野における戦略的パートナーシップに関して一連の重要な提案をすでに行っている。例えば、5 月中旬ホラズム州ウルゲンチで油圧掘削機および建設機械の生産および保守を専門とするウズベク・中国合弁企業 UzXCMG の創立記念式典が行われた。この企業を創業したのは中国の Xuzhou Construction Machinery Group Co., Ltd. と国営鉄道株式会社ウズベキストン・テミル・ヨラリである。年末までに掘削機 200 台を生産する計画である。

今年の年頭からウズアフトプロムがダマス自動車工場のホラズム州への移転を開始したことも注目に値する。2014 年に Damas 車の国産化 - シート、プラスチック部品、パンパー、ダッシュボード、プレス部品の生産 - に関する 5 件の投資プロジェクトを実現する計画である。

近い将来も、機械工業の発展はウズベキスタン各地域の工業力増大を目指す構造改革の深化における最優先分野のひとつであり続けるだろう。